

北杜市
交通事業者ヒアリング
報告書

平成 30 年 1 月

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
II. ヒアリング調査の結果	2
1. 山交タウンコーチ(株).....	2
2. (株)茅ヶ岳観光バス.....	4
3. (有)マルワ観光.....	6
4. 山梨峡北交通(株)・(有)須玉三共タクシー.....	8
5. (有)八ヶ岳観光タクシー.....	11
6. (有)大泉タクシー.....	13
7. 北杜タクシー(株)・小淵沢タクシー(株).....	16
8. 新生会福祉サービス.....	18

I. 調査の概要

1. 調査の目的

北杜市の地域公共交通は、合併前の旧町村営の路線バスを引き継いだ「市民バス」が運行されているが、広大なエリアに集落が点在していること、利用者が少ないことへの対応等課題を抱えている状況である。

この課題解決に向け、

- ・事業者から見た、地域公共交通網のあるべき姿や市民バスの課題を把握すること
 - ・交通事業者の、地域公共交通網との連携に関する考え方を把握すること
- を目的とし、市内の交通事業者を対象とするヒアリング調査を実施した。

2. 調査の方法

1) 調査の概要

調査期間：平成 29 年 7 月 25 日（火）～12 月 19 日（火）

対象：市内の交通事業者

	事業者名
1	山交タウンコーチ(株)
2	(株)茅ヶ岳観光バス
3	(有)マルワ観光
4	山梨峡北交通(株)・(有)須玉三共タクシー
5	(有)八ヶ岳観光タクシー
6	(有)大泉タクシー
7	北杜タクシー(株)・小淵沢タクシー(株)
8	新生会福祉サービス(有)高根タクシー
—	(有)高根タクシー

※高根タクシーは、ヒアリングを断られたため未掲載。

2) 調査の項目

①現状

現在の事業内容

市民バスの運行上の課題

②今後の市民バスとの関係性

公共交通網のあるべき姿

今後の連携に関する考え方

③市の計画の中に入れたい事業

利用環境の向上や利用促進に関する課題

II. ヒアリング調査の結果

1. 山交タウンコーチ(株)

■ヒアリング日時：2017年8月18日(金)10:30~12:00

■ヒアリング場所：山交タウンコーチ 葦崎営業所

■対 象 者：所長補佐・課長

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・山交タウンコーチは葦崎、甲府、鯉沢、身延、静岡に営業所を持っている。
 - ・主にバス事業。路線バス、貸切バスはすべての営業所。
 - ・タクシーは葦崎、身延のみ。
 - ・北杜（1路線）・葦崎（3路線4系統）・共同（3路線）は売り上げの大半を占めている。
 - ・売り上げが大きい順に乗合、貸切、タクシーの順となっている。
- 所有車両
 - ・乗合19台、貸切4台、タクシー9台。バスは主に中型車両。※葦崎営業所のみ
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・乗合20名、観光バス1名、タクシー8名。※葦崎営業所のみ

② タクシー事業について

- 主な営業範囲
 - ・峡北交通圏（葦崎市・北杜市）。甲府交通圏（甲斐市・中央市・昭和町）
 - ・実質的には、葦崎が多くなっている。
- 主な利用者像
 - ・東京エレクトロン工場への利用が多い（8割くらい）。後は、通院（市立病院、個人の接骨院等）・買物（駅前のスーパー等）。

③ 民間バスの運行について

- 事業の現状
 - ・下教線：廃止代替路線。葦崎市・北杜市から委託を受けている。
観光利用（サントリー）は、小淵沢駅からシャトルバスが出ている。
 - ・浅尾・仁田平線：地元の人がメイン。観光はフラワーセンターがある。
 - ・増富温泉郷線：瑞牆山への登山客が来る。
 - ・昔からある路線であり、生活の一部になっているのが強みとも言える。

- 主な移動
 - ・利用者は、地元の人。
 - ・観光利用も合わせてあったらいいと思っている。
 - ・利用は、夏休みの時が一番多い。

④ 市民バスの運行について

- 担当している路線
 - ・大坊・白須・大武川線（北杜高校便）
- 主な移動
 - ・高校生、中学生がほとんど。朝利用が集中している。
 - ・山梨の高校は全県1区となっている。
 - ・甲府の方から日野春駅で乗り継いで通ってくるお客さんも多いのでは。

● 運行上の課題

【下教来石線】

- ・県道と旧道の接続（上三吹（信号がない）～下三吹、上教来石～下教来石）が、急に交通量が変わり危険度が高くなる。
- ・道の駅はくしゅう、松原上・松原下（サントリー・シャトレーズ）、観光シーズンは県外車が多くなる。
- ・日野春駅は、バス、一般車、タクシーが分かれるのが理想だが、なかなかスペースはない。小型のバスに変えて、以前より運行しやすくなっている。

【増富温泉線】

- ・道が狭い（増富佼成寮）、（大渡）

2) 今後の市民バスとの関係性

① 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
 - ・これからも参画していきたい。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 利用促進
 - ・乗ったことがないから乗らないという人も多いのでは。スタンプラリー等、試しに乗ることを誘導してはどうか。乗り方教室はすでに山交でやっている。温泉ツアーとか。
 - ・走っていることを知らない人もいるのでは。まずは知っていただくことが大事。

2. (株)茅ヶ岳観光バス

■ヒアリング日時：2017年8月9日(水) 10:00～11:30

■ヒアリング場所：茅ヶ岳観光バス

■対 象 者：取締役

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・ 市民バス、貸切バス（ホテル送迎、旅行等 ※すべて不定期）
 - ・ 貸切バスが売上の7～8割、市民バス・スクールバスで2～3割
- 所有車両
 - ・ 8台（+1台、市民バス）
 - ・ 大型3台、中型1台、小型4台
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・ 16人（役員、スクールバス含む）
 - ・ 毎日運行しているわけではない
 - ・ 定期便は定期便専門の運転手がいる

② 市民バスの運行について

- 担当している路線
 - ・ 横手・日野春線
- 主な移動
 - ・ 高校生の通学が多い（4割くらい）。4～5月は、1便も乗るが、秋になるとバイクの免許をとって、切り替える。
 - ・ 武川小への通学も乗る。中学生はほぼ乗らない。
 - ・ 日野春駅に降りるのは、一般の人が多い。
- 運行上の課題
 - ・ 帝京高校に行く人は電車に間に合わない（7:48）。
 - ・ 病院は韮崎・甲府へ行っている。塩川病院へ行きたいという声もあるが、日野春駅等での乗り継ぎが上手くいかないのでは。
 - ・ 748着→751発（JR下り）、758発（JR上り）が乗れない。ホームまでが長い。設計上乘れていても、実態として接続できていない。
 - ・ 2便目は10分まではいかないが、5分近くは遅れてしまう。早めると、1便目も早くなってしまう。
 - ・ 2便目の日野春駅は混雑して出にくい。家族送迎や大きいバスも入ってくる。
 - ・ 暮れと正月は休みにしてもいいのではないかと（現行は1/1のみ休み）。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

- ・ 広くて非効率になっているのをどう解消するかが課題。
- ・ デマンドは東大のシステムがよくなかった。ひろえるお客さんがひろえず非効率になった。大泉だけでやっていた時は上手くいっていたが、拡大して上手くいかなかった。
- ・ 路線バス、デマンド併用がいいと思っている。路線バスにデマンドが接続するイメージ。ただし、高齢者は乗継を嫌がるかもしれない。
- ・ 観光まで広げるのは難しいのでは。今、やっているのはアウトバウンド。
- ・ インバウンド系のバスは、試験運行の話もあったが、事業者の中でまとまらなかった。強い観光コンテンツがあれば、一箇所集まったお客さんを散らばせて成功している事例はあるが、北杜は難しい。

② 現在の事業の課題

- ・ 運転手確保。大型2種免許がないといけませんが、近くにいない。
- ・ 貸切バスは9月と12～4月に利用が落ち込む。10～11月は利用が多くなる。
- ・ 5時半～19時半、14時間の拘束。一人ではできない。委託料の計算は1人となっている。実際は、交代要員も含めて3～4人でやる。委託料となかなか合わない。今は、スクールバスと合わせて拘束時間を少なくしている。しかし、全体としては給料が安くなって、運転手に負担がかかっている。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
 - ・ 少しでも役に立てれば、と思っている。
 - ・ どうせ走らせるならもっといいものにしたい。
 - ・ 運転手を確保できれば、悪い仕事ではない。定期的にお金が入ってくる。
 - ・ 課題は、体制が組めるか(運転手)、経営的に折り合いがつくか。できるようであれば、積極的に参画したい。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 利用環境の向上
 - ・ バス停が片方しかないところがある。インバウンドに取り組むなら、両方に置きたい。
- 利用促進
 - ・ 路線図はわかりにくい。
 - ・ 乗り換えの時間が追にくい。事業者でもお客さんにも説明しにくい。

3. (有)マルワ観光

■ヒアリング日時：2017年12月19日(火)13:30～14:30

■ヒアリング場所：マルワ観光

■対 象 者：部長

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・貸切バス（観光バス）事業、市民バス（小泉・長坂線）事業
- 所有車両
 - ・保有台数：大型5台、中型2台、小型4台
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・ドライバー数：14人、市民バスは1人がメイン（休憩・休みは交代でサポート）

② 市民バスの運行について

- 担当している路線
 - ・小泉・長坂線
- 主な移動
 - ・ほとんど高齢者。通院・買物のための利用が多い。
 - ・泉郷は、貸別荘がある。週末、夏場以外はお客さんが少ない。
 - ・通勤・通学はほぼないと考えてよい。そもそも子どもが少ない。いたとしてもバスで遠回りしながら移動するより、バイクや家族送迎で高校まで直接行ってしまった方が合理的だと思う。
- 運行上の課題
 - ・朝の1便はほとんど乗らない。他の時間を手厚くした方がよい。オールマイティにやるのではなく、需要のあるお客さんが便利なようにダイヤを組むことが重要。今後、高齢者は増えるため、手厚くしてもよいのではないか。
 - ・実際は、お年寄りでも免許を持っている人が多いため、市民バスに頼らないと暮らせない人の割合が少ない。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

- ・採算を取るレベルで事業を運営するのは厳しいので、都市インフラとして続けることになる。
- ・人の流れを見て計画すべき。例えば、北杜高校は通いづらいため市内に高校があ

っても、葦崎に出ていってしまう。

- ・改善にスピード感がない。利用者から意見を聞き取っても、新年度から変わらないのでは。
- ・市の担当者によって、熱意に差がある。担当が代わっても、同じ水準を維持してほしい。

【デマンド】

- ・利用者としたら便利だと思う。やるなら格差が出ないように網羅性を意識して徹底的にやるべき。定着するまで時間がかかるため、中長期的な視野を持って取り組んでほしい。

② 現在の事業の課題

- ・運転手の確保が厳しくなっている。中長期的に公共交通を持続していくには、30～40代の運転手を確保していけるような利益の確保が必要だと思う。現状は、一番若い運転手は40代後半となっている。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
- ・事業者なので、会社の利益が出ればやりたい。
一番安い事業者ではなく、適切な価格で落とせるようなことができないか。安全の確保にはそれなりにコストもかかる。安くしようと思えば、定年後の運転手をお願いするということになる。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 公共交通網
 - ・民間路線、市民バス、スクールバス、病院バスと様々なバスが走っている。バスの集約ができないか。スクールバスに大人が乗ってもいいのでは。病院バスは無料なのに、市民バスは有料なのか。
 - ・ダイヤの変更に事業者の意見を取り入れる手法があったほうが良い。一年後の見直しに向けて、いつまでに意見をいう等。乗車数や運賃収入の成績と、成果が上がった分どこに投資していくのかという情報も共有してもらえると良い。
- 利用促進
 - ・金額は、一律料金（どの路線に乗っても、どこからどこまで乗っても同じ）にした方が良いのでは。利用者にわかりやすく、利用しやすい価格にしてもらえると、乗ってもらいやすい。利用を増やすことで、運賃収入を上げるようにしてほしい。

4. 山梨峡北交通(株)・(有)須玉三共タクシー

■ヒアリング日時：2017年7月25日(火) 15:30～17:00

■ヒアリング場所：山梨峡北交通

■対 象 者：代表取締役

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・タクシー（会社別）、観光バス（自主運行、4月～10月の季節運行）、市民バス
 - ・3事業すべて同じくらいの収益。
- 所有車両
 - ・タクシー 7台、観光バス 4台。
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・タクシー 6人、観光バス 5人、市民バス 6人。ドライバーかぶりあり。

② タクシー事業について

- 主な営業範囲
 - ・峡北交通圏（韮崎、北杜全域）。
 - ・須玉エリアが中心。山梨県（甲府は例外）は流しのタクシーが成立せず、結果として旧町単位で営業している。
- 主な利用者像
 - ・須玉エリアは駅がないが、お客さんからの問い合わせで韮崎駅や清里駅の方が出発点になることもある。地元の人々の生活の足になっている。
 - ・北杜市の外出支援事業などによって交通弱者の足も増えている。

③ 民間バスの運行について

- 事業の現状
 - ・みずがきルートと茅ヶ岳ルート。
 - ・明野に来るお客さんは登山かひまわりが多い。1つの空間に閉じ込めたくないが増便できるだけの利用がない。
 - ・増富温泉から上は大型が通れないので小型のもので下から行くしかない。シーズンは増便し対応している。
- 主な移動
 - ・夏は韮崎駅～ひまわりが多くなる。春、秋は登山客（9割）と増富温泉（1割）。
 - ・昭和30年代は増富温泉まで運行していた。タクシーでは運びきれなくなり、定

期運行でバスを始めた。

④ 市民バスの運行について

- 担当している路線
 - ・ 南部巡回線、清里・長坂線、津金・百観音線
- 運行上の課題
 - ・ 南部巡回線：右回り、左回りは独立させるべき
 - ・ 清里・長坂線：南部巡回線とかぶっている部分があるので接続するべき
 - ・ 津金・百観音線：最も地形の悪い場所であり、どことも接続できていない。できるとすれば他社の葦崎行きの路線。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

【デマンド】

- ・ 北杜市はデマンド交通を限りなくタクシーの機能に近づけた結果、交通体のすみ分けができず失敗に終わった。すみ分けができれば実現可能。公共的な乗り物はある程度の不便さが必要。
- ・ タクシーは日中の買物等の移動だけではなく、応急的な役割を担ってきた。路線バス、デマンド等ができない移動をフォローするためにも、タクシー事業が成立するように考えていくことが重要。

【住民との関係性】

- ・ 住民が主義主張しすぎて複雑にしているのでは。住民の要望を全部まとめるのは不可能住民が参画することは重要。

【その他】

- ・ 行政に頼りすぎると営業努力をしなくなる。努力しない会社を、無理に延命するのは違うと思う。

② 現在の事業の課題

- ・ 民間ができなかったものを行政ができるという感覚がおかしい安全を求めるとハード面（ドライブレコーダーの設置など）、ソフト面（人件費、人材の確保など）の経費はかかる。必要な経費は確保していく必要がある。
- ・ ドライバーの高齢化が深刻化している。山梨だけでなく全国的な問題。ドライバーを確保できれば事業の拡大も可能。
- ・ 経営的に見ると難しいが、ドライバーの労働環境も整える必要がある。1路線（14時間運行）3人態勢が理想。行政は、委託先の雇用環境について配慮が足りない。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
 - ・ 事業者であるため、経営的に見合えば参画したい。
 - ・ 地域の移動には、できるだけ貢献していきたい。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 公共交通網
 - ・人の流れに関係するものは課を超えて話し合うべき。
 - ・市民にもっと地域のことも考えてもらう必要がある。
- 利用促進
 - ・もっとわかりやすくした方がいい。利用者側の目線にならないとダメ。
(例)方向によってバスの色を変える。
 - ・他業種や地域との共生も図っていききたい。

5. (有)八ヶ岳観光タクシー

- ヒアリング日時：2017年12月19日(火)15:30～16:30
- ヒアリング場所：須玉総合支所駐車場
- 対 象 者：代表

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・タクシー事業と市民バス
 - ・タクシーは、主に北杜市高根町清里。9割以上が観光。夏期、日中がメイン。
- 所有車両
 - ・保有台数：タクシー2台（普通車）、バス1台。
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・ドライバー数：タクシー3人（うち2人はバスと兼務）、バス2人。

② 市民バスの運行について

- 担当している路線
 - ・大坊・白須・大武川線、武川巡回線
- 主な移動
 - ・大坊・白須・大武川線
 - 高齢者が多い。回数券（免許証返納者）の利用が急に増えた。3～6枚の推移だったのが、先月から急に60枚になった。増えたのは、白州診療所、山口バス停（親戚訪問か）、塩沢温泉が多い。
 - ・武川巡回線
 - スーパーやまとの廃業で、減っている。小野商店に行くようになったのは1人だけ、下教来石線に乗り換えて白州のエブリ、韮崎に行くようになった人が多いのでは。いずれにしても、国道まで出るために乗らないといけない。乗車数は減っているが、乗換の時間がわからず、乗っていない人も多いのでは。
 - 高校生は見たことない。
- 運行上の課題
 - ・大坊・白須・大武川線
 - 6便はほとんど乗らない。7便は、塩沢温泉の帰りに使われているので、ニーズがまったくないわけではない。
 - ・武川巡回線
 - 1便の横手・日野春線への乗継をスムーズにしたい。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

【デマンド】

- ・会社としては、デマンドはいいと思っている。しかし、デマンドは一回失敗している。デマンド同じ結果にならないか心配。白州・武川の人は、お年寄りが多く予約が大変なのでは。電話できない人は乗れなくなってしまう。白州・武川の人から、今のバスがなくなったらデモ行進するという声も聞く。
- ・タクシー事業者で、地元の人をターゲットに事業を組み立てているところは反対するのでは。具体的に決まり始めると、文句をいう会社も出てくると思う。
- ・幹線と支線を組み合わせてデマンドの役割を限定する案はうまくいくかもしれない。

【幹線】

- ・長坂に行けるときらや甲陽病院に行ける。距離は伸びても、市民に喜ばれると思う。

② 現在の事業の課題

- ・運転手を増やしたため、仕事を確保したい。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
- ・今後も継続的に、仕事を受けたい。4条許可で受けられるので、積極的に役割を果たしたい。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 利用環境の向上
 - ・病院・役場・総合支所・町の駅にはイスがあってもよいのでは、という声も聞く。
- 利用促進
 - ・時刻表の改善。矢印が反対向きになっているところがわからない人がいる。路線図も、わかりにくいといわれる。曜日運行の表示が小さい。
 - ・温泉利用者は、定期券や回数券がわずらわしくて現金で乗る人が多い。温泉利用は帰り無料みたいなキャンペーンがあってもよい。

6. (有)大泉タクシー

■ヒアリング日時：2017年11月7日(火) 16:30~18:00

■ヒアリング場所：大泉タクシー

■対 象 者：取締役専務

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・タクシー事業、市民バス、スクールバス
- 所有車両
 - ・保有台数：タクシー9台
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・ドライバー数：18人、タクシーとバスは分けている。タクシーの運転手がバスをサポートできる体制にはなっている。

② タクシー事業について

- 主な営業範囲
 - ・事業所：小淵沢駅、長坂駅、甲斐小泉駅
- 主な利用者像
 - ・利用者割合：小淵沢 観光・別荘族・サラリーマン（7割）、地元（3割）
長坂 地元（7割）、観光・別荘族・サラリーマン（3割）
 - ・地域を良くしていくために、タクシーは何ができるかという視点で発想し、利用者を開拓する事業に積極的に取り組んでいる。
 - ・ひまわり市場との連携
 - バスや徒歩で来るお客さんも、帰りは荷物があるためタクシーの潜在的な需要がある。そのようなお客さんに対して、ひまわり市場と連携して、タクシーに半額で乗れる支援をしている。
 - ・コルクの会（大泉・長坂・高根）との連携
 - 焼印を押したコルクを持っているお客さんに割引し、飲食事業者が加盟する会から割引分を支払ってもらうようにしている。
- 事業者もある程度身銭を切って、需要を開拓していかないといけないのではないか。まずは、外出や公共交通を使う機会を増やしていくことが必要なのではないか。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

- ・最低限、暮らしに必要なところには行けるようにすべき（病院・スーパー・公共施設等）。地元にお金がまわることも重要。

【幹線】

- ・距離を短く、乗らない時間は削る等の見直しを行い、支線に使う事業費を捻出したり、運行頻度を上げたりすることに取り組むべき。

【支線】

- ・デマンド、タクシー等の方法がある。小型化して数を増やす等の工夫をし、ネットワークを高めると利用しやすいのでは。高齢者が増えるため、わかりやすい仕組みにする必要がある。ひまわり市場の仕組みを応用しながら、タクシールールでデマンドができると、行政にとっても負担が減ると考えている。ひまわり市場の仕組みの実績では、一乗車あたりの運賃の平均は1,600円程度。お客さん、交通事業者、目的地となる事業者、行政等がお金を折半していくような方法も十分可能だと思っている。
- ・乗合タクシーが可能になったとしても、お客さんと持ちつ持たれつ関係をつくるべき。下手に値下げせず500円は出すから乗せてって、という関係を構築していくことが重要。
- ・デマンドは、これまでと同じフルデマンドではなく、幹線の路線バスと組み合わせで地域を限定したり、運行ルートや時間にルールを設けたりしていくとうまくいく可能性はあると思う。

【住民との関係性】

- ・合併前の町村の生活圏や考え方の違いがあり、対市民の関係が難しいことは理解できる。逆の発想で、8つの地区で実験的にそれぞれの運行方法に取り組む手法はあると思う。うまくいった運行方法を他地域にも展開し、うまくいかなかった運行方法はやめる、という約束で実施していくことが重要。
- ・目的は「住みやすいまちをつくる」ことで決まっている。後は、どうやるか。各地区で話し合っ、責任を持った選択をしてもらう。方法よりも熱意が重要だと思う。
- ・支線は地区単位でつくって、地区をまたぐ移動は幹線を使うのが良いのでは。
- ・乗車率、コストパフォーマンス等、地区ごとの成績を出してほしい。データがあれば、変な文句も少なくなるのでは。

② 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
 - ・実験的なやり方になったとしても、会社として協力していきたい。
 - ・大泉ではタクシー事業との住み分けはなくてもいいくらいに考えている。目的である「住みやすいまちをつくる」ことに立ち返って判断するようにしている。ただし、他社は別の考え方があると思うので、地区ごとに詰めていければそれで良いのでは。

- ・デマンドの車輛繰りはお客さんとの時間調整で効率化できる。タクシーのノウハウを活用できる。各地区のタクシーのノウハウが活きる。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 利用促進
 - ・ 広告、スポンサーの制度を取り入れるべき。バスのラッピングで協賛を得ると地域愛、従業員のステータスになる。企業や従業員のモチベーションが変わってくる。

7. 北杜タクシー(株)・小淵沢タクシー(株)

■ヒアリング日時：2017年7月25日(火) 13:30～14:30

■ヒアリング場所：北杜タクシー

■対 象 者：代表取締役

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・タクシー事業のみ（北杜タクシー、小淵沢タクシーは別会社だが共同配車）
- 所有車両
 - ・保有台数：小淵沢：16台、北杜：14台
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・ドライバー数：小淵沢：15人、北杜：12人

② タクシー事業について

- 主な営業範囲
 - ・峡北事業区域：北杜市、韮崎市発着のみ運行
→清里の場合はタカネタクシーへ手配依頼（1時間以上空で走らせる必要あり）
武川、白州は運行
- 主な利用者像
 - ・小淵沢：ビジネス（4割）、観光（3割）、地元（3割）
※夏は 観光（5割）ビジネス（3割）地元（2割）
 - ・地元利用→通院、買物、その他（3割くらいずつ）
 - ・通院→甲陽病院、井上整形、中島医院、歯医者
 - ・買物→きららシティのオギノ
 - ・8月（観光繁忙期）GW、SW、夏休みなど連休は忙しい

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

- ・駅（小淵沢、長坂、日野春）、市立病院（塩川病院、甲陽病院）など拠点を各場所から結ぶものを作るべき。全部を網羅することは不可能。
- ・交通空白地域に住む高齢者には支援を行うべきということをデマンド廃止時に提案した。路線バスの見直しによって浮いた経費を回すべき。

【デマンド】

- ・デマンド運行時（2～3年前）は乗客が激減した。・当初タクシーとデマンドは住

み分けられるはずで市からの委託を受けたが、市からの要請で市民一人一人の要望に応じた結果、地域の垣根がなくなり、150円（65歳以上）で市全域をカバー（タクシーで5,000円のところをデマンドでは150円）。デマンドがタクシーとして機能し、住み分けが破綻した。終了後も、利用者はタクシーに戻らなかった。

- ・デマンドには賛成（時間と方向性を決めれば実現可能）。当日受付も可能なはず。
- ・タクシーとデマンドは役割が違う。デマンドはある程度の不便があり、足りない部分をタクシーが補えばよい。

② 現在の事業の課題

- ・運転手不足（応募がない）。給料、勤務時間を改善したい。
- ・車の稼働率を上げたい。
- ・利用者を掘り起こしたい。売上は常に減少傾向（H3年をピークに現在その半分）。観光のみではなく全体的に減少している。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
- ・北杜タクシーで、デマンドの役割を果たすことは可能。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 公共交通網
 - ・市民バスは今の路線、時間を走っている限り乗客は増えない。バス停が家から遠いため、デマンドでバス停を家の近くに作ることによって利用を促進する（作りすぎには注意すべき）。
- 事業者との関係
 - ・行政と事業者はいい関係を構築して進めるべき。タクシー会社が、事業を継続できるようにタクシーの売り上げが下がる分に関しては、委託を受け委託料をもらえるようにすべき。

8. 新生会福祉サービス

■ヒアリング日時：2017年7月25日(火) 10:30～11:30

■ヒアリング場所：諏訪赤十字病院駐車場

■対 象 者：代表

■ヒアリング結果

1) 現状

① 現在の事業内容

- 実施事業
 - ・ケア輸送サービス（H15年の9月から）。
 - ・電話で予約を受けるハイヤー方式、流しはできない。
 - ・運賃は、1800mで750円、271mで90円、地域で統一されている。
- 所有車両
 - ・3台
- 乗務員（ドライバー）数
 - ・1人。多い時は3人いた。
 - ・北杜市地域交通連絡会でもリフトやスロープが付いている車もある。今は、連携して乗り切っている。

② タクシー事業について

- 主な営業範囲
 - ・山梨県全域で営業。北杜市内のお客様が90%くらい。
- 主な利用者像
 - ・通院が主体80～90%（甲陽病院、塩川病院、韮崎市立病院、県立中央、山梨医大）、買物10%、その他（車椅子の方のお墓まいり、小旅行）。
 - ・要支援・介護者、身体障害者が条件になっている。車椅子の方が多い。
 - ・利用者は、比較的固定している。
 - ・午前中が多い。季節の変わり目（体調を崩されて）が多い。

2) 今後の市民バスとの関係性

① 公共交通網のあるべき姿

- ・市民バスは、今のままで良いと思っている。
- ・高齢者は無料等にできればなお良いのかもしれない。
- ・介護支援課でボランティアの送迎を始めたが、しばらく様子見だと思っている。今は、取った取られたという感じではない。

② 現在の事業の課題

- ・車が空いている。ドライバーを増やしたい。予約が重なる時は、他社を紹介している。利用者さんは増えている。

③ 今後の連携に関する考え方

- 今後も市民バス事業には積極的に参画していきたいか
- ・大型2種持っているドライバーが確保できれば、参画したい。

3) 市の計画の中に入れたい事業

- 利用促進
 - ・バスに乗れる人はいいけれど、乗れない人は福祉タクシーを使うしかない。時刻表に情報掲載してもらえたら良い。
- その他
 - ・セルフケアにより自分で動けるように、ということは重要だと思う。